

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6867720号
(P6867720)

(45) 発行日 令和3年5月12日 (2021.5.12)

(24) 登録日 令和3年4月13日 (2021.4.13)

(51) Int.Cl.	F I
A 4 1 D 13/11 (2006.01)	A 4 1 D 13/11 H
A 6 2 B 18/02 (2006.01)	A 4 1 D 13/11 A
	A 6 2 B 18/02 C

請求項の数 7 (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2020-105388 (P2020-105388)	(73) 特許権者	518273367
(22) 出願日	令和2年6月18日 (2020.6.18)		株式会社フラットビットスタジオ
(65) 公開番号	特開2020-165074 (P2020-165074A)		三重県志摩市阿児町鵜方4825 華洋ビル
(43) 公開日	令和2年10月8日 (2020.10.8)	(74) 代理人	100195431
審査請求日	令和2年10月19日 (2020.10.19)		弁理士 本田 史樹
早期審査対象出願		(72) 発明者	小幡 康正
			三重県志摩市阿児町鵜方4825 華洋ビル 株式会社フラットビットスタジオ内
		審査官	大野 明良

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 マスク

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

着用者が顔に装着するマスクであって、
 着用者の口及び鼻の位置に配置されるマスク本体と、
 前記マスク本体の右側に設けられ、着用者に接触し前記マスク本体を保持する右保持部と、
 、
 前記マスク本体の左側に設けられ、着用者に接触し前記マスク本体を保持する左保持部と、
 、
 前記マスク本体の右側に設けられ、前記マスク本体と着用者との間に隙間を設けるための右スペーサと、
 前記マスク本体の左側に設けられ、前記マスク本体と着用者との間に隙間を設けるための左スペーサと、を含み、
前記右保持部が、マスク本体に接続される右本体接続部と、前記右スペーサに接続される右スペーサ接続部と、を有し、
前記左保持部が、マスク本体に接続される左本体接続部と、前記左スペーサに接続される左スペーサ接続部と、を有し、
前記右スペーサが、裏返され、前記右本体接続部と前記右スペーサ接続部との間の位置で、前記右スペーサ接続部と接続され、かつ、
前記左スペーサが、裏返され、前記左本体接続部と前記左スペーサ接続部との間の位置で、前記左スペーサ接続部と接続されることにより、前記マスク本体と着用者との間に隙間

が設けられるマスク。

【請求項 2】

前記マスク本体と前記右保持部とが一体となって構成され、
前記マスク本体と前記左保持部とが一体となって構成される請求項 1 記載のマスク。

【請求項 3】

前記右保持部及び前記左保持部に取り付けられ、着用者の顔に前記マスクを装着させるための紐部材を含む請求項 請求項 1 又は 2 記載のマスク。

【請求項 4】

着用者との接触部分が前記紐部材、前記右スペーサの一部、前記左スペーサの一部、前記右スペーサ接続部及び前記左スペーサ接続部のみである請求項 3 記載のマスク。

10

【請求項 5】

前記右スペーサの角部と前記右保持部の基端部とが接続され、
前記左スペーサの角部と前記左保持部の基端部とが接続される請求項 4 記載のマスク。

【請求項 6】

前記右保持部は右挿入部を有し、
前記右スペーサは右被挿入部を有し、
前記左保持部は左挿入部を有し、
前記左スペーサは左被挿入部を有し、
前記右挿入部を前記右被挿入部に挿入することにより、前記右スペーサと前記右保持部とが接続され、
前記左挿入部を前記左被挿入部に挿入することにより、前記左スペーサと前記左保持部とが接続される請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載のマスク。

20

【請求項 7】

請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に係るマスクの材質が、透明性を有するプラスチックであるマスク。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、マスクに関する。

30

【背景技術】

【0002】

近年、新型コロナウイルス感染症（C O V I D - 1 9）の感染が大きな社会問題となっている。

【0003】

そして、現時点では、新型コロナウイルス感染症（C O V I D - 1 9）の治療法が確立されていないこともあり、予防のために日常的にマスクをする傾向にある。

【0004】

特許文献 1 では、マスク本体部の左右の端部と着用者の頬との間に生じる隙間の抑制機能を向上させたマスクが開示されている。

40

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】特開 2 0 2 0 - 8 4 3 8 8 公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、特許文献 1 に開示されたマスクは、着用者の頬との間に生じる隙間をできるだけなくそうとするものであり、肌に密着している部分が多く、マスク内で空気がこ

50

もり暑いという問題がある。

【 0 0 0 7 】

また、通気性がない素材のものほどウイルス感染を防止することができるが、この場合、呼吸がし難いという問題がある。

【 0 0 0 8 】

また、従来のマスクは透明性を有するものでないため、顔の約半分がマスクによっておおわれ、顔が分かり難いという問題がある。

【 0 0 0 9 】

本発明の目的は、飛沫感染を防止することである。

【 0 0 1 0 】

本発明の他の目的は、飛沫感染を防止すると共に呼吸がし易いマスクを提供することである。

【 0 0 1 1 】

本発明の他の目的は、透明性を有するマスクを提供することである。

【 0 0 1 2 】

本発明の他の目的は、暑さを軽減させるマスクを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 3 】

本発明に係る第1の局面に係るマスクは、着用者が顔に装着するマスクであって、着用者の口及び鼻の位置に配置されるマスク本体と、前記マスク本体の右上角部に設けられ、着用者に接触し前記マスク本体を保持する右保持部と、前記マスク本体の左上角部に設けられ、着用者に接触し前記マスク本体を保持する左保持部と、前記右保持部及び前記左保持部に取り付けられ、着用者の顔に前記マスクを装着させるための紐部材と、前記マスク本体の右下角部に設けられ、前記マスク本体と着用者との間に隙間を設けるための右スペーサと、前記マスク本体の左下角部に設けられ、前記マスク本体と着用者との間に隙間を設けるための左スペーサと、を含み、前記右スペーサが前記右保持部に接続され、かつ、前記左スペーサが前記左保持部に接続されることにより、前記マスク本体と着用者との間に隙間が設けられるマスクである。

【 0 0 1 4 】

本発明に係るマスクであれば、マスク本体を着用者に接触させないようにすることができる。また、着用者との接触部分は右保持部及び左保持部並びに右スペーサ及び左スペーサの一部のみであるため、接触面積が少ないという利点がある。なお、着用者との接触部分は右保持部及び左保持部並びに右スペーサ及び左スペーサの一部のみでなくてもよい。例えば、マスク本体の一部が着用者に接触していても本発明の効果に変わりはない。

【 0 0 1 5 】

マスクと着用者との間に空間（隙間）が設けられることにより、着用者は呼吸することができ、プラスチック等の通気性を有さない材質であっても使用することができる。

【 0 0 1 6 】

マスクと着用者との間に空間（隙間）が設けられており、また、接触面積も少ないため、着用者はマスクによる暑さが軽減される。

【 0 0 1 7 】

マスクがプラスチック等の通気性を有しない材質であれば、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）等のウイルスの飛沫感染を防止することに役立つ。

【 0 0 1 8 】

また、本発明に係るマスクであれば、着用者の唾等の飛沫が周辺に飛ぶのを防止することができる。

【 0 0 1 9 】

また、本発明に係るマスクであれば、プラスチック等の材質にすることができるため簡単に手入れをすることができ、何度でも使用することができる。

【 0 0 2 0 】

本発明の第 2 の局面に係るマスクは、第 1 の局面に係るマスクであって、前記右保持部が、マスク本体に接続される右本体接続部と、前記右スペーサに接続される右スペーサ接続部と、を有し、
前記左保持部が、マスク本体に接続される左本体接続部と、前記左スペーサに接続される左スペーサ接続部と、を有し、
前記右スペーサが、裏返され、前記右本体接続部と前記右スペーサ接続部との間の位置で、前記右スペーサ接続部と接続され、
前記左スペーサが、裏返され、前記左本体接続部と前記左スペーサ接続部との間の位置で、前記左スペーサ接続部と接続されるマスクである。

10

【 0 0 2 1 】

スペーサが裏返されて、保持部に接続されることにより、スペーサ及び保持部で構成される部分が立体的になり、マスク本体と着用者との間に空間を作ることができる。

【 0 0 2 2 】

また、右スペーサが右本体接続部と右スペーサ接続部との間に接続されることにより、右スペーサが右スペーサ接続部から外れ難くなるという効果を有する。

【 0 0 2 3 】

同様に、左スペーサが左本体接続部と左スペーサ接続部との間に接続されることにより、左スペーサが左スペーサ接続部から外れ難くなるという効果を有する。

20

【 0 0 2 4 】

本発明の第 3 の局面に係るマスクは、第 2 の局面に係るマスクであって、着用者との接触部分が前記紐部材、前記右スペーサの一部、前記左スペーサの一部、前記右スペーサ接続部及び前記左スペーサ接続部のみであるマスクである。

【 0 0 2 5 】

本発明に係るマスクと着用者との接触部分は、紐部材、右スペーサ及び左スペーサの角部付近、右スペーサ接続部及び左スペーサ接続部のみであるため、接触面積が少なく、着用者はマスクによる暑さが軽減される。

30

【 0 0 2 6 】

また、本発明に係るマスクと着用者との接触面積が少ないため、着用者はマスクを着けている不快感が軽減される。なお、着用者との接触部分が前記紐部材、前記右スペーサの一部、前記左スペーサの一部、前記右スペーサ接続部及び前記左スペーサ接続部のみでなくてもよい。例えば、マスク本体の一部が着用者に接触していても本発明の効果に変わりはない。

【 0 0 2 7 】

本発明の第 4 の局面に係るマスクは、第 3 の局面に係るマスクであって、前記右スペーサの角部と前記右保持部の基端部とが接続され、
前記左スペーサの角部と前記左保持部の基端部とが接続されるマスクである。

40

【 0 0 2 8 】

スペーサの角部と保持部の基端部とが接続されることにより、右スペーサと右保持部（右スペーサ接続部）、左スペーサと左保持部（左スペーサ接続部）が接続し易くなる。

【 0 0 2 9 】

つまり、右スペーサの一部と右スペーサ接続部との形状を一致させることができ、左スペーサの一部と左スペーサ接続部との形状を一致させることができる。

【 0 0 3 0 】

本発明の第 5 の局面に係るマスクは、第 1 の局面乃至第 4 の局面に係るマスクであって、前記右保持部は右挿入部を有し、
前記右スペーサは右被挿入部を有し、

50

前記左保持部は左挿入部を有し、
前記左スペーサは左被挿入部を有し、
前記右挿入部を前記右被挿入部に挿入することにより、前記右スペーサと前記右保持部とが接続され、
前記左挿入部を前記左被挿入部に挿入することにより、前記左スペーサと前記左保持部とが接続されるマスクである。

【0031】

保持部の挿入部をスペーサの被挿入部に挿入することにより接続することで、両面テープや接着剤等の接着部材が不要となる。

【0032】

また、マスクの材質が透明性を有するプラスチックの場合、両面テープが見えることもなく、見栄えも良くなるという利点がある。

【0033】

本発明の第6の局面に係るマスクは、第1の局面乃至第5の局面に係るマスクの材質が、透明性を有するプラスチックであるマスクである。

【0034】

「透明性」とは100%の透過率である必要はなく、若干透ける程度であってもよい。

【0035】

透明性を有するプラスチックを使用することにより、着用者の表情をみることができるという利点がある。

【0036】

また、透明性を有するプラスチックであれば、見栄え的にも涼し気であるという利点がある。

【0037】

また、本発明に係るマスクであれば、マスク本体が着用者に密着せず間に隙間があるため、眼鏡を着用した状態であっても眼鏡の曇りを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【0038】

【図1】本発明に係る一実施形態のマスクの斜視図。

【図2】同実施形態のマスクの正面図（紐部材なし）。

【図3】同実施形態のマスクの側面図（紐部材なし）。

【図4】同実施形態のマスクの展開図（紐部材なし）。

【図5】同実施形態のマスクの展開図の部分拡大図。

【図6】同実施形態のマスクが着用されている様子を表す画像。

【図7】同実施形態のマスクが着用されている様子を表す画像。

【図8】同実施形態のマスクが着用されている様子を表す画像。

【発明を実施するための形態】

【0039】

以下、本発明の実施形態に関して図面を参照しながら説明する。

【0040】

図1乃至図4に示すように、本実施形態に係るマスク100は、着用者の口及び鼻部分の位置に配置されるマスク本体200と、
マスク本体200を着用者に装着させるための保持部300と、
マスク本体200と着用者の顔との間に空間（隙間）を設けるためのスペーサ400と、を含む。

【0041】

本実施形態におけるマスク100は、透明性を有するプラスチックである。

【0042】

マスク100の材質は、透明性を有するものが好ましいが、透明性を有しないものであってもよい。

10

20

30

40

50

【 0 0 4 3 】

また、本実施形態におけるマスク 1 0 0 の材質は、P E T（ポリエチレンテレフタレート）であるが、P E、P P等の結晶性樹脂、及び、P V C、P C等の非結晶性樹脂であってもよい。マスク 1 0 0 の材質は特に限定されない。

【 0 0 4 4 】

図 4 に示すように、マスク 1 0 0 の展開図では、マスク本体 2 0 0 は略六角形であり、右上角部及び左上角部に保持部 3 0 0 が設けられ、右下角部及び左下角部にスペーサ 4 0 0 が設けられている。

【 0 0 4 5 】

マスク本体 2 0 0 は、マスク本体 2 0 0 を立体的にするため接続される部分である重畳部 2 1 0 と、重畳部 2 1 0 の一部が挿入（接続）される接続部である第 1 被挿入部 2 2 0 と、を有する。

10

【 0 0 4 6 】

マスク本体 2 0 0 は、着用者の右頬側に配置される右マスク本体 2 3 0 と、着用者の左頬側に配置される左マスク本体 2 4 0 と、の間に設けられる第 1 折り線 2 5 0 が設けられている。

【 0 0 4 7 】

重畳部 2 1 0 は、マスク本体 2 0 0 の中央上角部に設けられている。

【 0 0 4 8 】

20

本実施形態では、重畳部 2 1 0 が左マスク本体 2 4 0 に接続され、マスク本体 2 0 0 が立体的になる。

【 0 0 4 9 】

重畳部 2 1 0 は、第 1 被挿入部 2 2 0 に挿入する第 1 挿入部 2 1 1 を有する。

【 0 0 5 0 】

本実施形態では、重畳部 2 1 0 は、右マスク本体 2 3 0 上部に設けられており、重畳部 2 1 0 には第 2 折り線 2 1 2 が設けられている。

【 0 0 5 1 】

なお、重畳部 2 1 0 は左マスク本体 2 4 0 に設けられてもよい。つまり、第 1 折線 2 5 0 を対象軸として、左右逆に配置されていてもよい。

30

【 0 0 5 2 】

第 1 挿入部 2 1 1 は、左マスク本体 2 4 0 に設けられる第 1 被挿入部 2 2 0 に挿入される部分である。

【 0 0 5 3 】

本実施形態では、第 1 挿入部 2 1 1 は、平面視略三角形であり、y 軸方向中央に折り線である第 3 折り線 2 1 1 a が設けられている。本実施形態では、第 3 折り線 2 1 1 a は谷折り線である。

【 0 0 5 4 】

そして、第 1 挿入部 2 1 1 を第 3 折り線 2 1 1 a で手前（z 軸正方向側）に折り、第 1 被挿入部 2 2 0 に挿入し、挿入後、第 3 折り線 2 1 1 a で折った部分を開く。

40

【 0 0 5 5 】

図 5 に示すように、第 1 被挿入部 2 2 0 の幅 L は、第 1 挿入部 2 1 1 を第 3 折り線 2 1 1 a で折った幅 d がちょうど入る幅である。

【 0 0 5 6 】

つまり、第 1 被挿入部 2 2 0 の幅 L は、幅 d より若干距離がある構成である。

【 0 0 5 7 】

第 1 挿入部 2 1 1 を第 1 被挿入部 2 2 0 に挿入後、第 3 折り線 2 1 1 a で折った部分を開くことにより、第 1 挿入部 2 1 1 が第 1 被挿入部 2 2 0 から抜け難くなり、しっかりと固定される。

【 0 0 5 8 】

50

これにより、両面テープ等の接着部材を用いなくても重畳部 2 1 0 を左マスク本体 2 4 0 に接続される。なお、両面テープや接着剤等の接着部材を用いて接続されてもよい。

【 0 0 5 9 】

右マスク本体 2 3 0 は、着用者の右頬側に配置されるところである。右マスク本体 2 3 0 には、保持部 3 0 0 である右保持部 3 1 0 と、スペーサ 4 0 0 である右スペーサ 4 1 0 と、が接続されている。

【 0 0 6 0 】

図 4 に示すように、右保持部 3 1 0 は右マスク本体 2 3 0 の上方 (y 軸正方向側) である左上角部に設けられており、右スペーサ 4 1 0 は右マスク本体 2 3 0 の下方 (y 軸負方向側) である右下角部に設けられている。

10

【 0 0 6 1 】

具体的には、マスク本体 2 0 0 は平面視 (x y 平面視) 略六角形であり、右マスク本体 2 3 0 の左上角部に右保持部 3 1 0 が接続されており、右マスク本体 2 3 0 の右下角部に右スペーサ 4 1 0 が接続されている。

【 0 0 6 2 】

左マスク本体 2 4 0 は、着用者の左頬側に配置されるところである。左マスク本体 2 4 0 には、保持部 3 0 0 である左保持部 3 2 0 と、スペーサ 4 0 0 である左スペーサ 4 2 0 と、が接続されている。

【 0 0 6 3 】

図 4 に示すように、左保持部 3 2 0 は左マスク本体 2 4 0 の上方 (y 軸正方向側) である左上角部に設けられており、左スペーサ 4 2 0 は左マスク本体 2 4 0 の下方 (y 軸負方向側) である左下角部に設けられている。

20

【 0 0 6 4 】

具体的には、マスク本体 2 0 0 は平面視 (x y 平面視) 略六角形であり、左マスク本体 2 4 0 の左上角部に左保持部 3 2 0 が接続されており、左マスク本体 2 4 0 の左下角部に左スペーサ 4 2 0 が接続されている。

【 0 0 6 5 】

右保持部 3 1 0 は、右マスク本体 2 3 0 に接続されている右本体接続部 3 1 1 と、右スペーサ 4 1 0 に接続される右スペーサ接続部 3 1 2 と、を有する。

【 0 0 6 6 】

右本体接続部 3 1 1 と右スペーサ接続部 3 1 2 とは、右折り線 3 1 3 で山折り (z 軸負方向側に折る) することにより構成される。

30

【 0 0 6 7 】

右スペーサ接続部 3 1 2 は、着用者に接触する部分である。なお、右スペーサ 4 1 0 の一部も着用者に接触する。

【 0 0 6 8 】

右スペーサ接続部 3 1 2 は、紐部材 5 0 0 を通すための第 1 貫通孔 3 1 4 と、右スペーサ 4 1 0 と接続するための接続部である右挿入部 3 1 5 と、を有する。

【 0 0 6 9 】

第 1 貫通孔 3 1 4 は、右スペーサ接続部 3 1 2 の先端部にあり、右挿入部 3 1 5 は、右スペーサ接続部 3 1 2 の基端部にある。

40

【 0 0 7 0 】

本実施形態では、右挿入部 3 1 5 は略半円状の形状である。右挿入部 3 1 5 は着用者とは反対側である右本体接続部 3 1 1 側に押し出されるものであるため、着用者に接触し難い。

【 0 0 7 1 】

右スペーサ接続部 3 1 2 から右挿入部 3 1 5 が押し出された後の残り部分も略半円状であるため、着用者にその部分が接触してもチクチク感は抑えられるという効果を有する。なお、右挿入部 3 1 5 の形状は限定されない。

【 0 0 7 2 】

50

同様に、左保持部 3 2 0 は、左マスク本体 2 4 0 に接続されている左本体接続部 3 2 1 と、
左スペーサ 4 2 0 に接続される左スペーサ接続部 3 2 2 と、を有する。

【 0 0 7 3 】

左本体接続部 3 2 1 と左スペーサ接続部 3 2 2 とは、左折り線 3 2 3 で山折り（ z 軸負方向側に折る）することにより構成される。

【 0 0 7 4 】

左スペーサ接続部 3 2 2 は、着用者に接触する部分である。なお、左スペーサ 4 2 0 の一部も着用者に接触する。

【 0 0 7 5 】

左スペーサ接続部 3 2 2 は、紐部材 5 0 0 を通すための第 2 貫通孔 3 2 4 と、左スペーサ 4 2 0 と接続するための接続部である左挿入部 3 2 5 と、を有する。

【 0 0 7 6 】

第 2 貫通孔 3 2 4 は、左スペーサ接続部 3 2 2 の先端部にあり、左挿入部 3 2 5 は、左スペーサ接続部 3 2 2 の基端部にある。

【 0 0 7 7 】

本実施形態では、左挿入部 3 2 5 は略半円状の形状である。左挿入部 3 2 5 は着用者とは反対側である左本体接続部 3 2 1 側に押し出されるものであるため、着用者には接触し難い。

【 0 0 7 8 】

左スペーサ接続部 3 2 2 から左挿入部 3 2 5 が押し出された後の残り部分も略半円状であるため、その部分が着用者に接触してもチクチク感は抑えられるという効果を有する。なお、左挿入部 3 2 5 の形状は限定されない。

【 0 0 7 9 】

次に、右スペーサ 4 1 0 は、着用者の顔とマスク本体 2 0 0 との間に距離を保つためのものである。

【 0 0 8 0 】

図 4 に示すように、右スペーサ 4 1 0 は、平面視（ $x y$ 平面視）において、略 L 字状の形状をしている。

【 0 0 8 1 】

本実施形態では、右スペーサ 4 1 0 の先端部分の形状は、右スペーサ接続部 3 1 2 の形状と一致している。

【 0 0 8 2 】

右スペーサ 4 1 0 は、先端部に紐部材 5 0 0 を通すための第 3 貫通孔 4 1 1 と、L 字形状の角部に右スペーサ接続部 3 1 2 の右挿入部 3 1 5 を挿入（接続）するための右被挿入部 4 1 2 と、を有する。

【 0 0 8 3 】

図 4 は、本実施形態に係るマスク 1 0 0 の展開図であり、右スペーサ 4 1 0 の表側（ z 軸正方向側）を右スペーサ接続部 3 1 2 の裏側（ z 軸負方向側）に接続する。

【 0 0 8 4 】

具体的には、右スペーサ 4 1 0 を裏返し、右スペーサ 4 1 0 の表側の右被挿入部 4 1 2 に対して、右スペーサ接続部 3 1 2 の右挿入部 3 1 5 を挿入する。

【 0 0 8 5 】

そして、右スペーサ接続部 3 1 2 の裏面側から第 1 貫通孔 3 1 4 と、右スペーサ 4 1 0 の表側の第 3 貫通孔 4 1 1 とを重ね合わせ、第 1 貫通孔 3 1 4 及び第 3 貫通孔 4 1 1 に紐部材 5 0 0 を通す。

【 0 0 8 6 】

本実施形態では、第 1 貫通孔 3 1 4 と第 3 貫通孔 4 1 1 は円形状であり、直径は同一である。

【 0 0 8 7 】

10

20

30

40

50

右スペーサ４１０は、右本体接続部３１１と右スペーサ接続部３１２との間に配置されるため、右スペーサ４１０が、右スペーサ接続部３１２から外れ難くなる。

【００８８】

本実施形態では、右スペーサ接続部３１２と右スペーサ４１０は、右挿入部３１５を右被挿入部４１２に挿入することにより接続しており、両面テープ等の接着部材等を用いずに接続することができる。

【００８９】

なお、右スペーサ接続部３１２と右スペーサ４１０とは、両面テープや接着剤等の接着部材を用いて接続されてもよい。

【００９０】

右スペーサ４１０と同様に、左スペーサ４２０は、着用者の顔とマスク本体２００との間に距離を保つためのものである。

【００９１】

図４に示すように、左スペーサ４２０は、右スペーサ４１０と同様に、平面視（ x y 平面視）において、略Ｌ字状の形状をしている。

【００９２】

本実施形態では、左スペーサ４２０の先端部分の形状は、左スペーサ接続部３２２の形状と一致している。

【００９３】

左スペーサ４２０は、先端部に紐部材５００を通すための第４貫通孔４２１と、Ｌ字形状の角部に左スペーサ接続部３２２の左挿入部３２５を挿入（接続）するための左被挿入部４２２と、を有する。

【００９４】

図４は、本実施形態に係るマスク１００の展開図であり、左スペーサ４２０の表側（ z 軸正方向側）を左スペーサ接続部３２２の裏側（ z 軸負方向側）に接続する。

【００９５】

具体的には、左スペーサ４２０を裏返し、左スペーサ４２０の表側の左被挿入部４２２に対して、左スペーサ接続部３２２の左挿入部３２５を挿入する。

【００９６】

そして、左スペーサ接続部３２２の裏面側から第２貫通孔３２４と、左スペーサ４２０の表側の第４貫通孔４２１とを重ね合わせ、第２貫通孔３２４及び第４貫通孔４２１に紐部材５００を通す。

【００９７】

本実施形態では、第２貫通孔３２４と第４貫通孔４２１は円形状であり、直径は同一である。

【００９８】

図３に示すように、左スペーサ４２０は、左本体接続部３２１と左スペーサ接続部３２２との間に配置されるため、左スペーサ４２０が、左スペーサ接続部３２２から外れ難くなる。

【００９９】

本実施形態では、左スペーサ接続部３２２と左スペーサ４２０は、左挿入部３２５を左被挿入部４２２に挿入することにより接続しており、両面テープ等の接着部材等を用いずに接続することができる。

【０１００】

なお、左スペーサ接続部３２２と左スペーサ４２０とは、両面テープや接着剤等の接着部材を用いて接続されてもよい。

【０１０１】

図１に示すように、紐部材５００は、本実施形態では弾性部材からなるゴム紐であり、一端は、右保持部３１０及び右スペーサ４１０の貫通孔（第１貫通孔３１４及び第３貫通孔４１１）に通して結ばれ、他端は、左保持部３２０及び左スペーサ４２０の貫通孔（第

10

20

30

40

50

２貫通孔３２４及び第４貫通孔４２１）に通して結ばれている。

【０１０２】

なお、紐部材５００の材質及び結び方は特に限定されない。また、紐部材５００の結ぶ位置も特に限定されない。

【０１０３】

図６、図７及び図８からわかるように、スペーサ４００によって、マスク本体２００は着用者の顔から離れて（着用者に接触せずに）保持されており、暑さや息苦しさを軽減する。

【０１０４】

また、本実施形態に係るマスク１００は、透明性を有するプラスチックから構成されており、図６、図７及び図８からわかるように、着用者の表情がわかるという利点がある。

10

【０１０５】

また、図６及び図７から、本実施形態に係るマスク１００と着用者との接触面積が少ないことがわかる。

【０１０６】

本発明は、その趣旨を逸脱しない範囲で種々の改良、修正、又は変形を加えた態様でも実施できる。

【符号の説明】

【０１０７】

１００ ... マスク

20

２００ ... マスク本体

２１０ ... 重畳部

２１１ ... 第１挿入部

２１１ a ... 第３折り線

２１２ ... 第２折り線

２２０ ... 第１被挿入部

２３０ ... 右マスク本体

２４０ ... 左マスク本体

２５０ ... 第１折り線

３００ ... 保持部

30

３１０ ... 右保持部

３１１ ... 右本体接続部

３１２ ... 右スペーサ接続部

３２０ ... 左保持部

４００ ... スペーサ

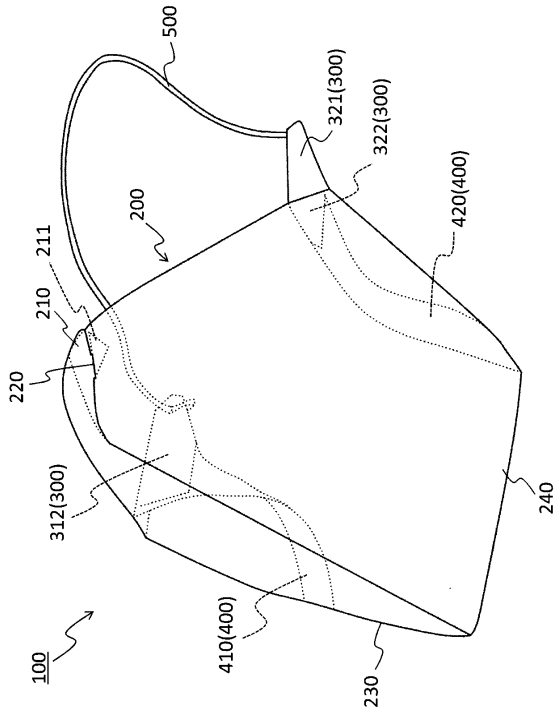
４１０ ... 右スペーサ

４２０ ... 左スペーサ

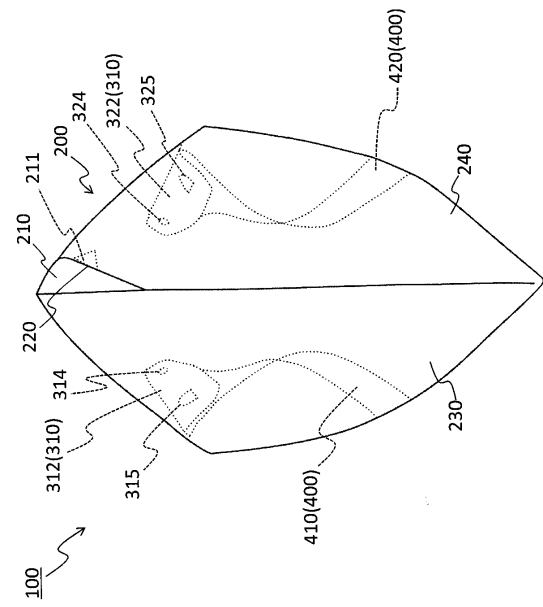
５００ ... 紐部材

40

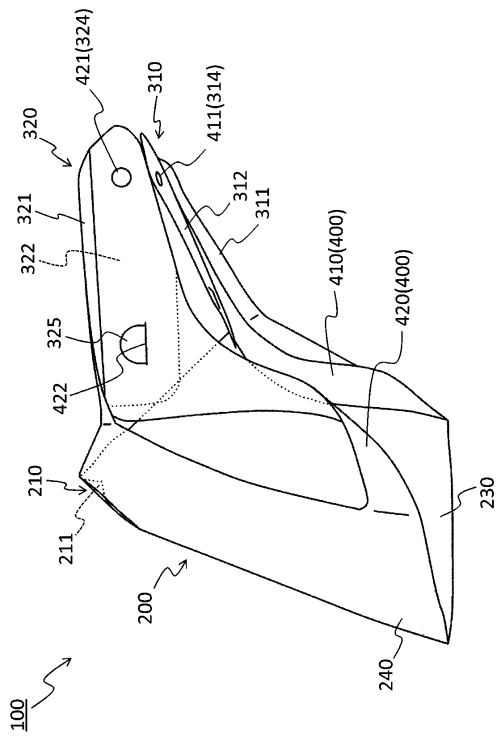
【図 1】



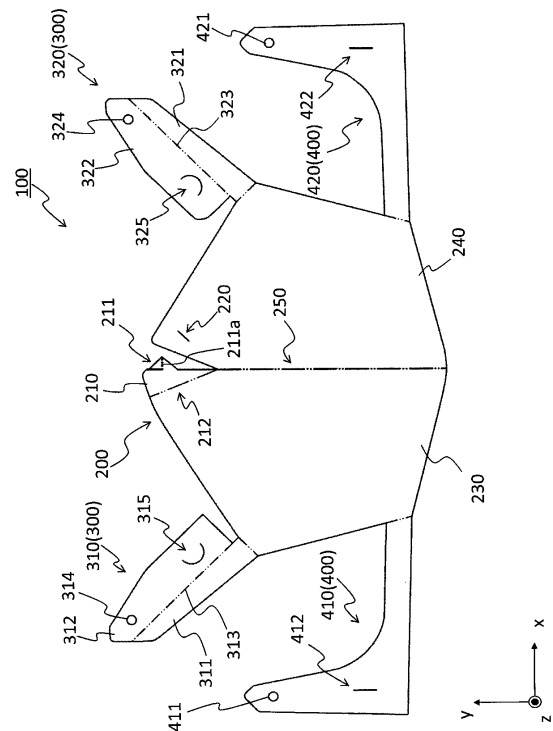
【図 2】



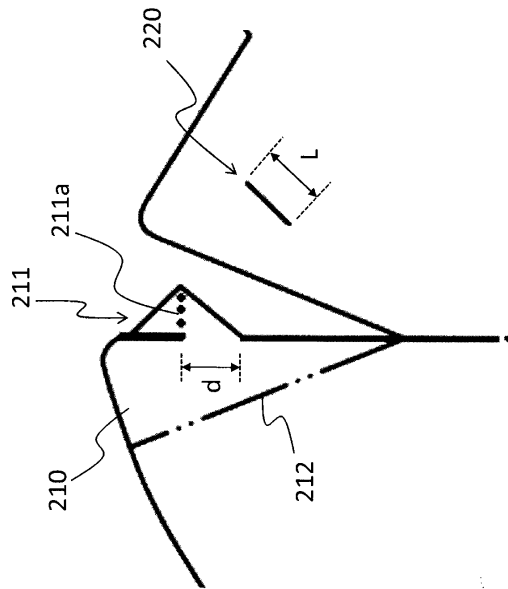
【図 3】



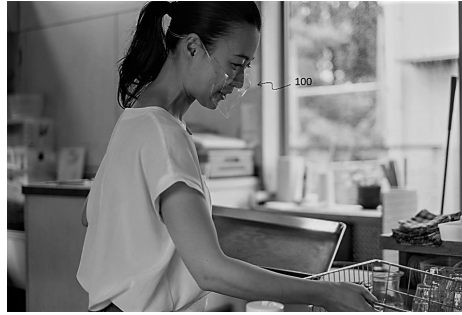
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】



フロントページの続き

(56)参考文献 独国実用新案第202020102011(DE, U1)

特開2009-189676(JP, A)

特開2013-046647(JP, A)

登録実用新案第3188156(JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A41D 13/11

A62B 18/02